

法政大学 情報科学部

2009 年度 「離散数学」 ガイダンス

栗原正純

2009 年 9 月 23 日

離散数学ガイダンス

- ① 科目 : 離散数学
- ② 教員 : 栗原正純
- ③ 教材テキスト : 本日の配布資料「離散数学」
- ④ 参考文献 : 資料の最後のページを参照

離散数学ガイダンス

① 授業の到達目標及びテーマ

情報科学や情報工学に関わる学問をよりよく理解するための基礎事項について講義する。

具体的には、集合、写像、論理、数学的帰納法、関係、グラフなどの離散系の数学的基礎概念を把握し、離散的な対象を論理的に表現し、思考できるための基礎を身につけることを目標とする。

離散数学ガイダンス

① 授業方法：

基本的には板書による講義形式にて授業を行う。講義時間中に、可能な限り演習も行う予定である。その他に、出欠課題、レポート課題を出題する予定である。

② 授業概要：

本講義では、

集合→写像→論理→数学的帰納法→
→関係→グラフ

と順番に数学的基礎概念を積み重ねるように講義を行う。

離散数学ガイダンス

① 評価方法：

原則として定期試験の成績に基づいて評価を行う。定期試験の結果が評価の100%を占める。

しかし、平常点として、課題のレポート提出状況およびその内容の評価結果を、付加的な判断材料として考慮することもある。

定期試験では、自筆ノートのみを持ち込み可とする。

② 評価基準：

集合、写像、論理、数学的帰納法、関係、グラフなど、講義で扱った基本的な概念を理解していることをもって合格の最低基準とする。